

東洋書院
書籍部
圖書部

英ノ王統ハ男女ヲ擇マステ必血胤ノ最近キ
者ヲ以テ嗣ト定ム然レモ其正統ヲ距ルコト相
齊シケレハ男ヲ先ニシテ女ヲ後ニス或ハ先王ノ
子ニ長女及次男アレハ男ヲ先ニシテ而シテ後順
ヲ以テ女子ニ推及ホス其繼承甚嚴ニシテ決シ
テ次ヲ踰エス事ルレム第一世ヨリ今千八百七
十三年ニ至ルマテ三十五王八百十四年其女子

ノ統ノ入テ立ツ毎ニ其家ヲ以テ朝ニ名ク故ニ
朝名ヲ革ムルコト五回ナレ其事實ハ一系ナリ
政府ノ庶務ヲ大別シテ立法行法ノ二トシ王ハ
其二課ノ長官ニシテ國會中上下兩院ノ議貞ト
共ニ法律ヲ議定シ之ヲ施行スルニ至テハ王獨
之ニ任ス故ニ國會ノ開閉徵遣官吏ノ黜陟及外
國ノ和戰交際等皆王ノ意ノマヽニシテ其權甚
重大ナリ加フルニ君王ノ行フ所枉濫アルコト
ナシト云フコト其國法ノ一トナリテ臣民敢ヘ
テ君王ヲ議スルコト能ハス是蓋中古君主專權

ノ遺弊ニシテ極メテ事ニ害アリ然レハ近世漸
ク方術ヲ設ケテ之ヲ收束シタルヲ以テ名ハ甚
重大ナリト雖其實ハ甚限アリ假令ハ和戰ノ權
ハ君主ニ在リト雖軍資ヲ納ル、權ハ國會ニ在
リ故ニ君主輿論ニ恃テ兵ヲ起スコトアレハ國
會軍資ヲ抑ヘテ之ヲ納レス又國會君主ノ非ヲ
揚クルコト能ハスト雖執政ノ職ハ君主ヲ輔導
スルニ在ルヲ以テ君主過アレハ則國會之ヲ執
政ニ責メ已ムコトヲ得サレハ之ヲシテ職ヲ解
カシム故ニ稱シテ行法官長ト曰フト雖大事ニ

至テハ殆其意ヲ行フ地ナク每事唯議院ノ意ヲ承奉スルノミナリ
 上古ハ王家ノ公邑ト名ツクル者アリ又諸侯ノ代襲嫁娶等アル毎ニ金ヲ納ル其他諸雜ノ貢稅ヲ以テ一切政府ノ用ニ充テシカ中世封建ノ制衰フルニ及テ政府ノ費用ハ議院ヨリ之ヲ獻納スルコト、為リ其中ヲ以テ王家ノ私費ヲ辨セリ其後齊ルレム第三世ノ入立スルニ及テ此等ノ法制大ニ整ヒ始メテ政府ノ公費ト王家ノ私費トヲ分テリ其額數ハ世々同シカラス千七百

七十七年議院ノ定ムル所ニ據レハ九十萬ポンドナリ然レモ當時ハ之ヲ以テ官吏及外國公使ノ俸給等ヲ辨センニヨリテ齊ルレム第四世在位ノ時之ヲ以テ公費ニ移シ歲額ヲ減シテ五十萬ポンドトセシカ今王ニ及テ又之ヲ減シテ今ハ三十八萬五千ポンドナリ其中王家ノ内帑家隸ノ俸給其老退スル者ノ恩養銀及惠恤ノ諸費等又皆定額アリテ王皆之ヲ恣マ、ニスルコトヲ得ス一歲ノ總額ヲ庫部ノ長官ニ托シ置キ其鑒視ヲ受ケテ之ヲ出納シ其出額四十萬ポンド

ドニ超ユルコトアレハ三十日内ヲ限り之ヲ詳
 計シテ議院ノ點檢ヲ受ク其他ランカストルハ
 古ヨリ王家ノ公邑ニシテ今尚王ニ直隸シ其歲
 入凡五万ポンドアリ

后以下ハ皆人臣ノ列ナリ然レ后ハ尋常ノ人
 妻ト同レカラス法律ニ於テハ之ヲ至メソール
 ト名ツク即有夫ノ婦人ニ對スル語ニレテ女子
 一家ノ主タル者ニ視フルナリ故ニ后ハ土地ヲ
 有スルコトヲ得又之ヲ賣ルコトヲ得ル等他ニ
 異ナル特權アリ世子ハ之ヲ威爾斯ノプリンス

小國ノ君ニト稱シ又世々コルンワルノ公ニ封
 用井ル稱ニト稱シ又世々コルンワルノ公ニ封
 セラル又多クハ至ストルノ伯爵ヲ兼ヌ方今至
 ストルト威爾ストハ虛封ト為リタレ氏獨コル
 ンワルノミ今ニ至ルマテ尚其實ヲ存セリ王ノ
 庶子ハ大抵貴族ニ列シ又ハ僧トナルコト常ニ
 シテグローストル及ヨルク等ノ公爵ニ封セラ
 ル者最多シ是等ハ固ヨリ人臣ナリト雖其禮
 遇稍異ナル者アリ王ノ子王ノ兄弟王ノ叔父及
 王ノ兄弟姉妹ノ子ハ餘ノ公爵ノ上ニ位シ以下
 ハ皆順ヲ以テ位ヲ定ム

世子ノ歳俸ハ別ニ議院ヨリ獻納スル者アリ今
 ハ其數四万ポンドニシテコルンワルノ歳入ト
 合セテ凡十萬ポンドナリ其他庶子ノ俸金ハ王
 家ノ定額中ヨリ分ケテ之ヲ給與ス

貴族

貴族ハ三種ニシテ世襲ノ者アリ一世ノ者アリ
 官ニ因テ得ル者アリ世襲ノ者ニ古来ノ貴族ト
 王ヨリ新ニ封セラレトノニアリ一世ノ者ハ
 皆新封ノ者ナリ官ニ因テ得ル者ハ其在官ノ間
 貴族ニ列スル者是ナリ古ノ貴族ト稱セシ者ハ

封土ヲ保テ城郭ヲ擁シテ全ク我邦往時ノ諸侯

ト異ナラサリレカ今ハ虚封ニシテ某地ノ公伯

ト稱スルモ唯其名アルノミナリ珠ニ近來ハ内

外ノ地ヲ問ハ

スゼルビスカセント伯ニ封セラレテ功有テ

ナイル河ノ戦ニ勝テ天ナイルノ男ニ封セラレ

タル如キ直ニ其戦勝ノ地ニ封シテ其功ヲ記ス

者甚其今ノ制度ニ變シタルハ蓋ニ一ルス第ニ

ノ世ニ在リテ其前ハ封建ノ遺弊尚存在シテス

チアルト諸王ノ間貴族其誅求ト堪ヘス故ニ復

王ノ歳終ニ古昔兵役ノ法ヲ廢シ其封土ヲ改メ

テ尋常私有ノ土地ト為シ、ナリ故ニ方今貴族

ト特權ハ其身上院ノ一員ト為リ又犯罪アリト雖議院直ニ之ヲ糾彈シテ尋常法衙ノ審理ヲ受ケサル等數事ニ過キスシテ其他ハ庶人ト異ナルコトナシ但封土ノ制變シテヨリ其遺地ヲ守テ未^タ散佚セサル者ハ往々巨萬ノ富ヲ擁スル者アリ

王ハ新^ニ貴族ヲ命スル權アリ是亦遺弊ノ一ニシテ甚^ク時勢ト合ハス又王一議ヲ起シテ之ヲ國會ニ下ス時上院之ニ從ハサレハ王驟^ニ數十名ノ寵臣ヲ抽テ貴族トシ之ヲ上院ニ遣シテ其議

ヲ覆ハスコトアリゼオ^ルシ第一ノ世ソンド^ルラ^ンドノ首輔タリシ時其執政之ヲ以テ不當ノ特權トシテ永ク貴族ノ數ヲ定メシトノ議ヲ起シ、カ上院ニ於テハ其議容易ニ行ハレタレト下院之ニ與セス蓋^シ議案既ニ下院ヲ經テ之ヲ上院ニ輸スルニ上院之ニ與ヒサルヲ以テ王新ニ貴族ヲ命シテ其論ヲ覆ハスハ王ト民ト皆其議ヲ好ミテ獨^ニ上院ノミ服セサル時ナリ然ルニ貴族ノ數永ク定マリテ復^テ其論ヲ覆ハスコトヲ得サレハ君民既ニ是トスル計議モ僅^ニ一上院ノ為

ニ敗ラル、ナリ是名ハ其權ヲ殺クト雖其實ハ之ヲ固クスルナリ故ニ國人今ニ至リテ其議ノ成ラサリシヲ喜フト云フ

執政

政府中庫部、内務、外務、植民、印度、陸軍、海軍ノ七官ヲ置テ其長官ヲセクレタリト名ク又外ニ貿易、賑救、郵便、教育ノ四司アリ皆政府ニ直隸スル者ナレバ其權ハ右ノ七官ニ一等ヲ遜ルモノニシテ之ト並立セス是等ノ長官ヲ總稱シテミニストリト云フ即執政ノ義ナリ又別ニハ、

ンセロル、樞密院ノ議長、尚小璽等ノ數官アリ皆政府ノ大臣ニシテ右ノ七官四司ノ長ト共ニ之ヲ内閣ト名ツク内閣ノ中ニハ又王ノ特命ヲ以テ選抽セラレ別ニ官職ヲクシテ庶政ニ參議スル者アリ然レバ其例ハ多カラス且、近来ハ執政ト云ヒ内閣ト云フモ殆、區別ナシ此中々ンセロルハ舊官ニシテサクソクノ頃ヨリ既ニコレアリ古代ハ王ヲ輔佐シ百官ニ臨ミテ大相國ノ如キ官ナリシカニニストルノ制起テヨリ以來實權自庫部長官ニ歸シテ此官今ハ殆、常職ナシ方

今ハ庫部長官必首輔ヲ兼子大璽ヲ尚リ諸執政
 ノ上ニ位スルコト定例トナレリ
 凡、執政ヲ命スルニハ王先、獨、首輔ヲ選ミ餘ハ首
 輔ニ命シテ之ヲ選任セシム故ニ一時ノ執政ハ
 大抵皆其首輔ノ黨人ニシテ首輔ノ名ヲ舉ケテ
 之ヲ某氏ノ執政ト呼ヒ首輔過チアリ或ハ議論
 ノ行ハレサルヲ以テ官ヲ去レハ諸執政皆隨テ
 退職シ更ニ首輔ヲ命シテ新ニ内閣ヲ編立ス若
 其首輔職ニ就テ後衆望ヲ得ス内閣ヲ編立スル
 コト能ハサルトキハ大ニ其首輔ノ恥トス又内

閣悉、一黨派ノ人ナラサルコトアリ此時ハ議論
 分裂シテ必久シキコト能ハス之ヲ雜駁執政ト
 名ツケテ亦首輔ノ恥辱トス執政ヲ命シ及之ヲ
 罷ムル權ハ共ニ王ニ在テ其黜陟王之ヲ恣ニス
 ルコトヲ得レ氏議院ニ亦其罪ヲ論スル權アリ
 執政王ニ比黨シテ曲事ヲ行ヒ或ハ其議論國會
 ト合ハサレハ議院其職ヲ責メ王ヲシテ之ヲ廢
 黜セシム故ニ執政議院ニ得ラレサルハ官ニ在
 ルコトヲ得ス王亦時ノ黨人ニ非レハ之ヲ用井
 ルコト能ハス

議院

議員ノ代選貢進上下兩院ノ區別高僧貴族ノ分
 類等ハ本文中處々ニ提出ス故ニ復此ニ贅セス
 今唯院中議事ノ大略ヲ説クヘシ千八百七十年
 ノ記ニ據ルニ上院中ノ議員ノ總數四百五十六
 名中ニ十六名ヲ高僧トス餘ハ貴族ナリ下院ノ數六百五十二名ア
 リ國會ヲ開ク前王キニセロルニ命シテ檄ヲ國
 内ノ貴族、高僧、及州牧、邑宰、其他撰貢ニ與カル官
 吏ニ移シ某日ヲ期シテ議員ヲ來會セシメ本日
 ニ至テ王親ヲ儀衛ヲ整ヘテ上院ニ臨ミ悉上下

兩院ノ議員ヲ徵聚シテ國會ヲ開ク所以ノ意ト
 會中議スヘキ事ノ大概トヲ演フ然レモ會中議
 スル所ノ事ハ必シモ王ノ言ニ拘ハラス一タヒ
 國會ヲ開テ後ハ院中ニ議スル所ノ事ヲ外ヨリ
 牽制シ得サルコト議院ノ法ニシテ議事ノ初故
 ニ他事ヲ議シ其權ヲ示スコト例トナレリ此禮
 畢テ後上院ハ一二日間會ヲ撤シ下院モ常規ノ
 事一二條ヲ終ヘテ休會ス此ニ於テ國會始メテ
 開キ是ヨリ閉院或ハ解放ニ至ルマテ日コトニ
 會合スルナリ凡會中ノ議事ハ下院ニ原ツカモ

可ナリ亦上院ニ原ツクモ可ナリ但貢税軍資等
 ノ如キ金貨ニ關リタル議案ハ必下院ニ基ツカ
 スハ有ル可カラス又外人請書ヲ作ケ院中ニ捧
 クルコトアリ然レモ大抵ハ執政ヨリ建議スル
 コト最多レトス凡、一事ヲ建議セントスル者ハ
 先、帽ヲ脱シテ其席ニ立チ議長ニ向テ我ニ某ノ
 事アリ今之ヲ建議シテ可ナリヤ否ヲ問ヒ且、其
 事ノ大意ヲ演フ時ニ一人他ニ起立シテ我、其議
 ヲ賛翼スト云フ者アレハ議長則之ヲ受クヘシ
 ヤ否ヲ會中ニ問ヒ會員ノ許ヲ得レハ其建議者

ト賛者トニ命シ之ニ數名ノ議員ヲ加ヘテ其議
 案ヲ草セシム但議案ハ他ニ一人以上ノ賛者ナ
 ケレハ受クヘカラス是、一人ノ協同スル者ナキ
 無用ノ冗論ニ時間ヲ費サンコトヲ懼レテナリ
 議案既ニ成レハ議長先、之ヲ書記官ニ附シテ高
 ク宣讀セシメ而シテ后少間ヲ經テ再之ヲ宣讀
 レ即日議事ニ及フコトアリ然レモ大抵ハ數日
 ノ後ヲ期シ其間議案ヲ刷印シテ議員ニ領ツコ
 ト常ナリ第ニ二回ノ宣讀ノ後議員各議長ニ向テ
 其可否ヲ陳シ或ハ會員自之ヲ添削スルコトア

リ或ハコンミテト名ツケテ院中ノ數員ヲ選
ミ之ニ議案ヲ附託シテ其情實ヲ審査シ其文章
體裁ヲ改竄セシムルコトアリ或ハ全院ヲ解テ
コンミテト為スコトアリ此時ハ固ヨリ本會
ト異ナラスト雖唯院中ノ規則ニ縛セラレスレ
テ更ニ詳論熟議スルコトヲ得故ニ事重大ニ涉
ル時ハ往々此法ヲ用ヰルコトアリ此間之ヲ院
中ノ討論ト名ツケテ屢大議論ヲ生シ往々數十
日決セス討論ノ間ハ議員ノ顧念スル所ナク言
論スルコトヲ許シ其忌諱ニ觸ルハ以テ之ヲ

捕逮スルコトヲ得ス又議員互ニ院中ノ言ヲ啣
テ之ヲ院外ニ報復スルコトヲ許サス斯テ添削
修正略定マリテ後又之ヲ宣讀シ而シテ后議長
會中ニ向テ其取捨ヲ問フ之ヲ決スルニハ數法
アリ然レモ國會中ニハ大抵二分ノ法ヲ用ヰ議
長問題ヲ下シテ后之ヲ是トスル者ト非トスル
者トヲ兩側ニ分立セシメ計司ヲ命シテ之ヲ計
算セシメ其成數ヲ對舉シテ會中ニ宣告ス是ニ
於テ之ヲ非トスル者半ヨリ多ケレハ其議廢シ
テ其會中再之ヲ建議スルコトヲ許サス是トス

ル者半ヨリ多ケレハ之ヲ上院ニ贈テ其評ヲ請
 フ上院ニ於テ之ヲ議スル法ハ右ト異ナルコト
 ナシ上院若之ヲ拒斥スル時ハ其議法ト為ルコ
 トヲ得ス或ハ上院更ニ潤色ヲ加ヘテ之ヲ下院
 ニ送却スルコトアリ下院其潤色ヲ是トスレハ
 之ニ協同シテ再上院ニ送還シ又之ニ從フコト
 能ハサレハ兩院互ニ數名ヲ選ミ相會シテ熟議
 協同セシム是ニ至テ兩院遂ニ異ヲ執テ移ラサ
 レハ其議或ハ廢スルコトアリ然レモ議案上院
 ヲ經ル時ハ其題號ヲ命シテ之ヲ淨書シ是ニ於

テ唯王ノ制可ヲ待ツ、ミナリ又議案上院ニ原
 ツク時ハ上院先之ヲ評決シテ下院ニ送り下院
 之ニ協同スレハ再上院ニ遞送シテ王ノ制可ヲ
 請フ總テ許可ヲ請フヘキ議案ハ之ヲ院中ニ疊
 積シ置キ會末ニ至テ一時ニ之ヲ上聞ス
 議案全國ノ公事ニ關ラヌ一人一社ノ私案ナル
 時ハ之ヲ請願スル者自之ヲ院中ニ捧クルコト
 ヲ許サス必一議員ヲ倩テ紹介セシム其他ハ大
 ニ異ナルコトナシ但鐵道ヲ鋪キ河渠ヲ鑿ツカ
 如キハ其利ヲ蒙ムル者ト害ヲ蒙ムル者ト相半

スル者ナリ然ル時ハ議案ヲコンニテ一ニ托
 シ利害ヲ異ニスル者ヲ並ヘ呼テ各其辭ヲ悉サ
 シム此時ハ争者各代言人ヲ用ヰルコトヲ許シ
 之ヲ審斷スルコト法衙ニ於ケルト異ナラス斷
 案成テ後之ヲ本會ニ復命レ而シテ后尋常ノ如
 ク其得失ヲ討論ス
 議案王ノ許可ヲ請フ時ハ王躬上院ニ至リ下院
 ノ人衆ヲ徵聚シテ書記官一々議案ヲ朗讀ス王
 之ヲ制可スルニ其書公案ナル時ハ書記ニ命シ
 テ言ハシメテ曰ク余モ亦是ノ如クナランコト

ヲ欲スト私案ナル時ハ則曰ク其欲スル所ニ任
 セヨト又貢税ノ議案ナル時ハ曰ク余汝等ノ惠
 ヲ受ケテ其好意ヲ謝シ且其議ニ協同スト又王
 若之ヲ拒却セントスル時ハ曰ク余尚之ヲ熟考
 スヘント然レモ近来ハ王絶テ二院評定ノ議案
 ヲ拒却セル例ナシ其許可ヲ請フモ殆儀禮ヲ存
 スルノミニニシテ近頃ハ書記唯議案ノ題號ヲ讀
 上ルノミナリ

法制

英國ニハ司法ノ省ヲ置カス其法衙ノ制多ク舊

習ニ沿襲シテ其既ニ在ル者ハ之ヲ廢セス足ラ
 サル者ハ新ニ之ヲ補テ唯先規ニ因リ宜シキラ
 制スル故ニ錯雜シテ甚解シ難シ先國內第一等
 ノ審判ノ權ヲ有スル者ハ議院ニシテ土地財産
 ノ争訟難結シテ解ケサル者ハ此ニ上訴スルコ
 トアリ又執政過アリ其他大臣貴族罪ヲ犯スカ
 如キ國ノ大獄ハインピーチメントト名ツケテ
 下院原告ト為リ上院審官ト為テ之ヲ裁斷ス然
 レハ是等ハ皆異常ノ事ニシテ其處置往々尋常
 ノ法衙ト同シカラス之ヲ除テ次ニ財産ノ訟ヲ

司ル者ハ各ニセリ一ノ衙門ナリ此衙門ノ長官
 ハ即ハイテンセロルニシテ原王ハイテンセロ
 ルニ命シ臣民ノ冤枉ヲ受ケテ開伸スル所ナキ
 者ヲ覆審セシムル為ニ設ケタリシカ今ハ其所
 轄甚廣シ次ニキングス、ベンチエキス等ケルコ
 ンモンプリースノ三衙アリ此三衙ハ其起ル所
 皆同シカラスト雖今ハ其權力相濟シク其司掌
 モ亦全ク異ナラス各長官一名附屬ノ官四名ア
 リテ諸般ノ争訟ヲ聽斷シ凡上訴セントスル事
 アル者ハ此三衙中何ニ出訴スルモ可ナリ且訟

者其一ニ訴テ尚其裁決ニ服セサル時ハ他ノ二
 衙ニ控訴シテ其覆審ヲ請フコトヲ得又法律中
 疑難ノ事アリテ一衙ニ於テ決スルコト能ハサ
 ル時ハ三衙ノ審官相會シ時トシテハハイマン
 セロルモ亦加ハリテ公議ヲ取ルコトアリ英倫
 及威尔斯ヲ八巡察區ニ分チ每歲春夏兩次右三
 衙ノ法官一區コトニ各二名諸州ヲ巡行シアサ
 イズト名ツクル衙門ヲ開テ訴ヲ聽クコトアリ
 其權カハ右ノ三衙ト異ナラス唯僻遠ニ住スル
 者ノ為ニ其地ニ就テ裁斷シ出訴ニ便スルナリ

之ニ次テ州衙ト名ツクル者アリ即日常ノ小事
 ヲ決スル衙門ニシテ凡^レ財産ノ争五十ポンドニ
 滿タサル者ヲ裁斷シ英倫及威尔斯ノ諸市邑ニ
 散在シテ其數五百ニ及ヘリ然レモ每衙悉^レ聽訟
 官アルニ非ス其數僅ニ六十名ニシテ一名數衙
 ヲ兼攝スルナリ其他プロバートト名ツケテ財
 産貽傳ノ事ヲ司ル衙門アリジボルスト名ツケ
 テ婚姻離異ノ事ヲ司ル者アリ以上二衙ハ大抵
 一法官ヲ以テ之ヲ兼ヌ又バンクト名
 ツクル者アリ商賈ノ折本破産スル者ヲ司ルイ

ンソル空ニシト名ツクル者アリ窘窮ニ陥テ
 逋債ヲ償フコト能ハサル者ヲ處決ス
 斷獄法衙ノ最高キ者ハロルド、ハイ、ス左アルド
 ノ衙門ニシテ常ニ之ヲ設ケスス左アルドハ古
 封建ノ頃ノ一高官ナリレカ今ハ久レク廢官ト
 為リ貴族反逆以下ノ大罪アル時特ニ上院中ノ
 一員ヲ選テ之ヲ英倫ノロルド、ハイ、ス左アルド
 ト名ツケテ十二名以上ノ貴族ト共ニ之ヲ糾彈
 セシム次ニキングス、ベンチノ衙門アリ上文ニ
 記セル三衙中獨此衙門ノミ罪囚ノ糾彈ニ與テ

諸下等衙門ノ不法ヲ鑿視シ又諸衙門ヨリノ控
 訴ヲ覆審ス法官諸區ヲ巡察スル時ハ又刑獄ニ
 與ル權アリ之カ為ニクロウシ、コイルトト名ツ
 クル者ニ臨テ犯罪ノ事ヲ理治ス此衙門ノ下ニ
 四季ノ衙門アリ次ニペテリ、セシヨント名ツクル
 者アリ此二衙門ハ其權力共ニ限アリペテリ、セ
 シンハ醉狂毆鬪等ノ細事ヲ主治シテ其力ニ及
 ハサル者ハ之ヲ四季ノ衙門ニ輸シ四季ノ衙門
 ニテ及ハサル者ハ其犯徒ヲ捕収シ置テ巡察法
 官ノ来ルヲ待ツナリ倫敦ニハ別ニ中央犯罪衙

門ト名ツクル者アリテ巡察衙門ニ代リテ近地
 ヲ管轄シ其事務多端ナルヲ以テ之ヲ開クコト
 一歳間七八回ニ下ラス又國內處々ニ檢屍衙門
 ト名ツクル者アリ其職掌ハ長官十二名以上ノ
 陪審ヲ用ヰテ其急死シ或ハ獄死セル者ノ屍ヲ
 點檢ス若シ其事實疑フヘキ者アルニ決スル時ハ
 其決案ハ大陪審ノ決案ニ齊シ其獄ヲ斷スルニ
 ハ復々大陪審ヲ用ヰス獨リ小陪審ノミヲ用ヰテ之
 ヲ斷ス
 争訟スルコトアラントスル者ハ自衙庭ニ出訴

スルコトヲ許スト雖訴訟ノ法ニ巧拙アルヲ以
 テ訟者代言人ヲ倩ヒ己ニ代テ幹旋セシムルコ
 ト通習タリ代言人ニ二種ノ別アリ一ヲアド
 ニトト名ツケテ衙門外ノ事ヲ幹旋シ一ヲアド
 ボケートトト名ケテ衙門内ノ事ヲ幹旋ス皆法學
 ノ免許ヲ得タル學士ニシテ此輩之ヲ以テ門戸
 ヲ張り他人ノ求ニ應シ謝金ヲ得テ代訴スルコ
 ト譬ヘハ醫家ノ病ニ奔走シテ營生スルカ如ク
 訟事ニ巧ナレハ來請スル者多ク巧ナラサレハ
 來請スル者少シ然レトモ或ハ其巧ヲ狭ミ曲者

ヲ回護シテ頗其弊ナキコト能ハスト云フ原告
 衙庭ニ出テ、後第一ニ為ヘキハ書ヲ作テ被告
 ヲ呼出スナリ其書ハリトト名ツケテ被告若幾
 時日ノ内ニ衙庭ニ出テサレハ原告ノ者直ヲ得
 ヘキヨシヲ載スル者ニシテ原告ノ代官人之ヲ
 書シ法官之ニ衙印ヲ押シテ被告ニ與フ被告此
 書ヲ得レハ則衙庭ニ出テ又書ヲ以テ徵ニ應シ
 衙門ニ候スルコトヲ報告ス是ニ於テ之ヲ二人
 衙前ニ在リト謂ヒ其審判ニ至ル前原告被告先
 争決スヘキ條件ヲ論定ス之ヲプリージングト

名ツケ往時ハ甚紛擾ノ事ニシテ別ニ之ヲ業ト
 スル者アリシカ今ハ漸ク簡易ニ為リテ復之ヲ
 專修スル者ナシ其法原告先出訴ニ至リタル所
 以及ヒ其申明セントスル條件ノ委曲ヲ書ニ作
 テ之ヲ被告ニ贈リ次ニ被告モ亦書ヲ作り其意
 ヲ辨解シテ原告ニ答フ其後原告尚言ハントス
 ルコトアレハ再之ヲ論駁シ是ノ如クニシテ往
 復數次ニ至ルコトアリ其結局甲ノ言フ所乙之
 ニ服セス互ニ異ヲ執テ移ラサル期アリ是乃審
 判ヲ受クヘキ條件ニシテ之ヲイシト名ツク

此ニ至ルマテ訟事ヲ幹旋スル者ハアトルニ
 ナリシヒ一既ニ定マリテ後争者各其往復ノ次
 第ト齟齬ノ條件トヲ略記シ之ニ謝金ノ數ヲ記
 シテアドボケートヲ雇ヒ共ニ衙庭ニ訴フ總ヘ
 テ細小ノ事件ヲ決スルニハ法官獨之ニ任シテ
 陪審ヲ用ヰス巡察衙門以上ノ争訟ニハ則陪審
 ヲ用ヰテ法官ハ法律ヲ決シ陪審ハ事實ヲ決ス
 陪審タル者ハ財産ノ限アリテ至貧ナル者ハ之
 ニ加ハルコトヲ許サス州牧預制限以上ノ財産
 アル者ヲ調査シ其姓名牌ヲ作テ之ヲ二函中ニ

貯ヘ置キ事アル時ハ法官其函中ニ就キ其名牌
 十二葉ヲ暗索シテ陪審ヲ編制スルナリ衙庭ノ
 争辨ハ時ノ景況ニ隨テ一定ノ規則ナシト雖其
 概略ヲ擧ケレハ争者衙前ニ出テ、後原告ノ代
 言人先ッ其證伸セントスル事實ヲ述ヘ証者アレ
 ハ證者ヲシテ之ヲ保證セシム次ニ被告ノ代言
 人又證者ニ對シテ一々原告ノ述フル所ヲ糺シ
 又被告ニ利アルヘキ事アレハ之ヲ擧ケテ詰問
 スルコトヲ得ルナリ而シテ后被告ノ代言人其
 原告ノ要求ニ抗スル所以ヲ述ヘ又證人ヲ呼テ

之ヲ保證セシム此證人モ亦原告之ヲ詰問スル
 コトヲ得ルナリ此事終テ被告ノ代言人再衙門
 ニ向テ其意ヲ申明シ次ニ原告ノ代言人モ亦再
 其意ヲ述フ是ニ於テ法官其争訟ノ要ヲ摘テ陪
 審ニ告ケ其事實ノ曲直ヲ問フ陪審ノ答辭ヲ上
 ルハ其席ニ於テスルコトアリ或ハ別室ニ退キ
 熟議シテ後上ルコトアリ陪者ノ答辭出ツレハ
 法官之ヲ法律ニ照シテ之ヲ處スヘキ所以ヲ決
 スルナリ
 罪囚ヲ糺彈スルニハ正證略證ノ二法アリ略證

ハ少許ノ贖金ヲ課シ或ハ一時獄ニ投スル如キ
 小事ニ用ヰル者ニシテ其法短簡別ニ詳記スヘ
 キ者ナシ今其正證法ヲ左ニ略説ス總ヘテ犯罪
 ノ疑アル人ハ先^テ巡邏ヲシテ之ヲ捕逮セシメバ
 テ^ルヤ^シヨ^ンノ前ニ徵致シテ略其罪ノ有無ヲ糺
 シ若^シ其深ク疑フベキ時ハ之ヲ拘留シテ四季ノ
 衙門或ハ巡察衙門ノ期ヲ待ツナリ此間或ハ之
 ヲ繫獄スルコトアリ或ハベイ^ルト名ツケテ假
 ニ之ヲ放遣スルコトアリベイ^ルハ稍我邦ノ親
 類預ケ等ニ類セル者ニシテ犯者ノ罪甚重カラ

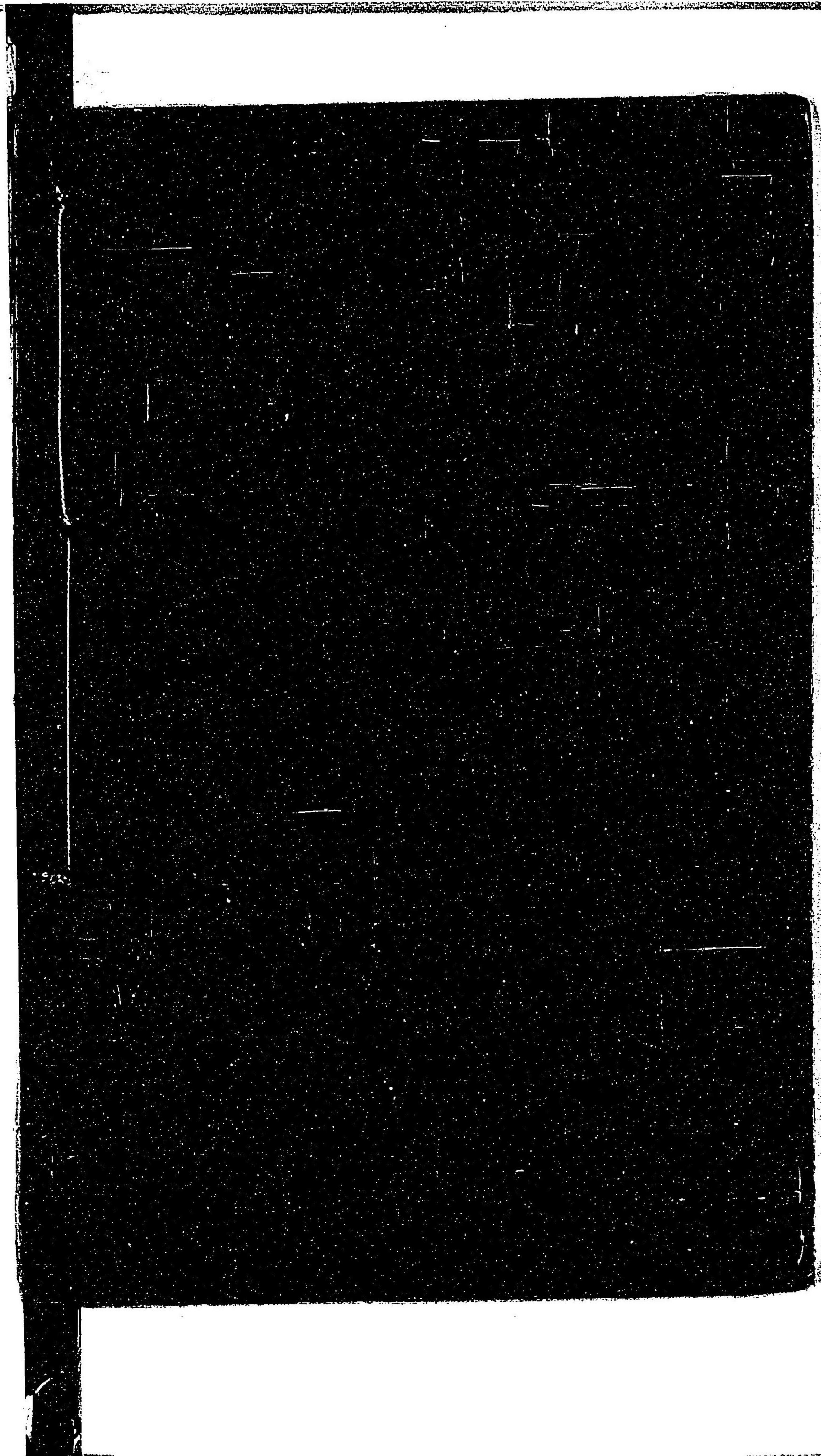
ス其逃逸ノ虞ナキ時ハ朋友親戚ノ擔保スル者
 アルヲ待テ之ニ委託スルナリ罪獄ノ陪審ニハ
 大小ノ別アリ其編立法ハ全ク争訟衙門ノ陪審
 ニ異ナラスト雖但大陪審ハ其數十二名ヨリ二
 十三名ニ至リ其門地モ稍高クシテ邑官ト同門
 地ノ豪族ヲ用弁ルヲ法トシ大抵ハ即其邑官ヲ
 以テ之ニ充ツ大陪審ノ職掌ハインダイトメン
 トト名ツクル證罪書ノ真偽輕重ヲ決スルナリ
 總ヘテ犯罪ノ者アル時ハ州官巡邏ニ命ンテ其
 事實ヲ探索セシメ而シテ其得タル證左ヲ衙門

ノ定式ニ書記シタルライندگانトト名
 ック巡察衙門ノ期ニ至レハ其獄ヲ開ク前法官
 先ッ大陪審ヲ呼ヒ悉ク證罪書ヲ之ニ附シテ其真偽
 ヲ考定セシメ陪審某々ノ條件ニ最疑フヘキ者
 アルコトヲ反命スレハ次ニ犯者ヲ衙庭ニ呼ヒ
 出シ之ニ其條件ヲ讀ミ聞カシメテ自之ヲ知レ
 リヤ否ヤヲ問フ是ニ於テ犯者直ニ其罪ニ服ス
 レハ則止ミ若服セサル時ハ小陪審ヲ徴出シテ
 一名ノアドボケートニ命ン證罪書ニ據テ犯者
 ト争辨セシム時ニ小陪審ノ中嘗テ犯者ト仇怨

改正 刑律 附録 三十一

アル者アリ或ハ之ニ類スルコトアリテ犯者其
審判ヲ受クルコトヲ欲セサル時ハ法官ニ請テ
之ヲ斥ケ或ハ其幾名ヲ拒ムコトヲ得又犯者外
國ノ人ナル時ハ半ハ英人ヲ用半ハ外國人ヲ
用井テ陪審ヲ編制スルモ可ナリ其他争辨ノ法
ハ略争訟ニ於ケルト異ナラス斯テ争辨既ニ畢
レハ法官其要ヲ撮ミ小陪審ニ示シテ其事ノ虚
實ヲ決セシメ而シテ后法官其罪ノ大小ヲ定ム

英史附錄終



東泉圖書
類屬函架
二五
四六
冊